

うつのみやまちづくり市民会議 議事録

会 議 の 名 称	市民会議（第 1 2 回都市自治分科会）
開 催 日 時	平成 18 年 9 月 19 日（火）午後 6 時から 8 時
開 催 場 所	宇都宮市役所 5 階入札室
出 席 者	（市民委員）中村会長，浅見副会長，浅野（薫）市民委員，浅野（政）市民委員，柿沼市民委員，小針市民委員，清水市民委員，高野市民委員，船津市民委員 （欠席：川又市民委員，橋立市民委員） （市事務局）
会 議 内 容	・事業の検討
会 議 資 料	1. 第 1 2 回分科会資料
発言者	発言内容
進行	本日は施策事業について検討します。
市民委員	・子育て情報誌を出している女性がいる。フリーペーパー。普通はボランティア。しかし，広告をとって事業としてやっている。例えば，不動産会社が広告を出す場合も，母親を対象にした広告をとできるので，ターゲットをしぼることができる ・こうした社会企業家が今後無視できないのではないか ・宇都宮には 30 代程度の市民で「維新組」というグループをつくって社会企業について取り組んでいる人たちがいる
市民委員	（社会企業家） ・現状は民間でやろうとしても困難に直面することが多い。例えば広告収入だけで費用をまかなおうとして，人件費など固定費がかかるので難しい。官公庁はつぶれることはないが，民間では 3 年続けるだけでも難しい。こうした民間の動きをバックアップする仕組みは必須である （学校による情報誌の提供） ・学校の校長先生が情報誌をつくって地域に配って，それによって児童や生徒が集まったという話を聞いたことがある。 ・民間のお金を集めて情報提供をしていく，という動きが行政の情報提供を同じくらいのウェイトを占めるような時代がくるのではないかな。

市民委員	(幼児と老人) ・ 10 年先を見据えた施策を考える必要がある。幼老統合フェアのような試みにより，子供の居場所と老人の居場所が同時に実現している。子供なら子供，老人なら老人というふうにわけて考えるのではなく，あわせて考えていく必要もあるのではないか。
市民委員	・ 省庁の縦割りで一緒に施設としては整備できないことも考える必要がある
市民委員	・ 隣接して設置することで一体的な運営に近いものを実現しているケースがある
進行	時間がきたので今回はここまでとします。次回は，事業の内容を更にブラッシュアップします。 次回の日程は 10 月 31 日（火）18 時からです。以上で第 12 回の都市自治分科会を終了します。